

## 2. 日本語教育「語いの指導についての研究」

金 森 強

<はじめに>

言語教育の中で語いの指導が一番研究の進んでいない分野であると言える。これは、言語研究において音韻や統語と比べ意味の研究がまだ十分に研究されていないことと関係が深い。現在までに、言語学者の興味を中心に統語論と音韻論にあり、言語教育者が利用できる語いに関する資料は不足していると言える。それ故、言語教育において、多くの場合音声教育や文法教育ばかりに重きを置き、語いの教育に注意が注がれることは希なことなのである。実際の所、扱いやすいことばかりに目を向けるあまり、語い教育における問題点さえはっきりされていないと言える。ましてや、語い教育の方法にしても今の所、体系的な研究は進んでいないのである。しかしながら、語い教育が文法教育や音声教育と同様に言語教育において大切なことであることは言うまでもない。D. A. Wilkins(1972) は言語学習における語いの大切さを次のように述べている。

**Experience shows that to learn numbers of words without learning to construct sentences is of little practical value. Not enough attention has been paid to the converse view-that there is not much value either in being able to produce grammatical sentences if one has not got the vocabulary that is needed to convey what one wishes to say. One is literally 'at a loss for words'.**

限られた時間内ですべての語いを教授するのは不可能なことであり、それほど必要でない語を初期の頃から与えられるというのも効率的であるとは言えない。何等かの方法で語いを選択し、それらを教材として最も適する形に配列する必要性がでてくる。言語教育の為の教科書を作ろうとする場合、Wilkins は語いの選定に関して次のことを頭におくようにと言っている。

**If one is going to construct texts from which people are to learn the language, rather than use 'natural' texts, then it may be that for the writer simply to be aware of such notions as frequency, range, usefulness, language variety and teachability is enough to ensure that he avoids the mistakes of uncontrolled introduction of vocabulary.**

林(1968)は語いに「広さ：語の現れる幅」と「深さ：頻度の高さ」と言う考えを取り入れ、5417語を12に分類している。また教育を目的としての基本語いの発表をしている。特に後者の特定の目的のための基本語いの研究は、今後研究が進められなければならない点として意義深いものだと言える。外国人に日本語を教えるという目的のための基本語いとは一体どのようなものになるのだろうか。その語いの選定にあたっての基準とはどういうものなのだろうか。この選定の基準を明確に

定義することから始めるべきであろう。頻度、分布の範囲、有用性、多用性、教え易さの他には考えられないのだろうか。選定された語いの配列に関してはどうであろう、語いの指導がうまく行く配列の研究がなされなければいけないはずである。またこの適切な配列の基準も明確に定義されなければならない。これらのことを可能にするためにも、まずは、語いそれ自体の研究がよりいっそう進めなければならないのである。

#### I. 「マンガ、サザエさんに使用された動詞の分析結果から」

我々日本人は日常の会話においていったいどのような語を多く使用しているのだろうか。書き言葉ならばその研究も可能であろうが、話し言葉となると簡単にはいかない。ある人にテープレコーダーを一日中つけっぱなしにおくというのちょっと無理な話である。なるべく一般的な日本人の会話に近いものを得る方法はないものかと考えたあげく「サザエさん」という日本人なら誰でもが知っているテレビマンガを取り上げてみることにした。ご存じのようにこの番組はサザエさん一家の出来事を題材にしたもので、日本の風俗、習慣、文化などがうまく表されていて、外国人に日本の普通の家庭生活を知らせるのもってこいのものである。またその中で使用している言葉も一般的な日本人の会話に近いものと思われる。今回14話を録画し、その中で使用されている動詞に限定してその頻度を調べてみた。表1はその結果であり、使用度数と使用率<sup>1</sup>を示してある。使用率の大きい方から順に配列されている。一回だけしか使用されなかったものは表の下にまとめてあげてある。

使用された動詞ののべ数は680語であった。

表1. マンガサザエさんに使用された動詞の使用度数と使用率 (%) 680語中

語	使用度数	使用率 (%)	語	使用度数	使用率 (%)
する	88	129.41	聞く	7	
行く	46	67.64	困る	6	8.82
ある	26	38.24	頼む	6	
言う	26		見つける	6	
来る	25	36.76	頂く	5	7.35
取る	22	32.35	入れる	5	
見る	18	26.47	会う	5	
やる	18		似合う	5	
買う	14	20.58	見せる	4	5.88
できる	14		開ける	4	
思う	12	17.64	終わる	4	
食べる	12		帰る	4	
成る	10	14.70	教える	4	

語	使用度数	使用率 (%)	語	使用度数	使用率 (%)
遊ぶ	10		作る	4	
持つ	9	13.23	出る	4	
入る	9		届く	3	4.41
分かる	9		置く	3	
いる	8	11.76	調べる	3	
知る	8		ついている	3	
見える	8		住む	3	
出かける	8		生きる	3	
探す	7	10.29	置く	3	
落ちる	3		無い	2	
飼う	3		気が利く	2	
借りる	3		助ける	2	
着替える	3		訪ねる	2	
怒る	3		伺う	2	
あげる	3		売る	2	
待つ	3		気になる	2	
着る	3		着く	2	
負ける	3		恐れ入る	2	
登る	3		下さる	2	
手伝う	2	2.94	撮る	2	
なく	2		逃げる	2	
ねる	2		残す	2	
掘る	2		回る	2	
写る	2		移る	2	
威かす	2		がんばる	2	
もらう	2		行(き)届く	2	
忘れる	2		出す	2	

一回だけ使用された動詞（使用率1.44%）として以下のものがあった。

あたる 押しつける 返す かまう かしこまる 書く 間違える  
 答える こる 急ぐ 追い出す 起きる 隠す 決まる くれる 要る  
 入れ違う 埋め合わせる 思いつく 勝つ せまられる 刈(り)取る 変わる

担ぐ　くっつける　上げる　あがる　こわれる　返る　かなえる　かける  
 気に入る　断る　進める　そこねる　立つ　ちらかす　釣る　できあがる  
 だっこする　捕らえる　しこむ　過ぎる　ずれる　助かる　建てる　違う  
 飛び降りる　飛ぶ　届ける　無くなる　直る　咲く　すてる　つぶれる  
 適する　取っておく　名のる　しかる　楽しむ　使う　もうす　暖める  
 似る　寄る　やる　喜ぶ　笑う　譲る　用立てる　よける　脱ぐ　のぞく  
 離れる　始める　引き締まる　ふざける　まとめる　磨く　残る　走る  
 ひっかく　増す　ふられる　誉める　まいる　はげむ　見掛ける  
 乗る　働く　はりきる　踏む　まとめる

<考 察>

林 (1975) は、新聞基幹語いを基にして「教育基本語い」を発表している。この中の動詞73語のうち31語を本調査のこの表の中に見つけることができる。その31語の本調査における使用率の和をだしてみると、576.47%で、全体の半分以上をしめていることになる。林氏は、そのデータを書き言葉から取ってはいるが、その結果得られた「教育基本語い」は、動詞において、口語に関してもかなりあてはまるものだと言えそうである。

この調査で特に目をひくのは、「する」の使用率の高さである。129.41パーミールもしめている。つまり100語動詞があらわれたらその中に12-13語の「する」が含まれていることになる。そしてこの「する」は、ほとんど「体言+する」の形式でできていた。本来は、「体言をする」のものが、この「を」が落ちた形で口語では用いられる傾向があるようである。

勉強をする　水泳をする　運転をする　心配をする　発表をする　紹介をする　失敗をする  
 観察をする　損をする　用意をする　留守番をする　etc.

この「体言+する」の体言は何でも良いというわけではないのだろうが、最近ではその制限が弱まりTVやラジオでは、「学生する」「お茶する」「お昼する」「青春する」「カラオケする」「リッチする」「サーファーする」「シャワーする」「朝シャンする」と言ったような使われ方もされているようである。外来語に関してはよくわからないまま民間語源による類推でこういった使用が生まれてきたのかもしれない。この「体言+する」の使用範囲が口語において広がっていることは確かなようである。しかしながら、学習者にとってありがたいことにこの形の動詞は体言を知ってさえいればそれに「する」をつけるだけで動詞を生み出すことができるということである。体言の他にも、「擬態語+する」：パクパクする、チクチクする、バタバタする、「こそあど+する」：ああする、こうする、どうする、等<sup>2</sup>もあるので、いっしょに指導すれば、語いの拡大の為の手助けとなるはずである。

<おわりに>

Twadell(1973) は初級の学習者について、会話や講義を聞いたり、読書をするのに十分な語いを学習者が知るのは時間的に不可能であり、その解決策としては、学習者が語いを拡大するための技術を知る必要があると言っているが、この「体言+する」でつくる動詞は、その技術の一つと考えられるのではないだろうか。語いの指導と共に語いを増やす技術の指導、研究にも教師は目を向けなければならないはずであろう。口語において「体言+する」の使用が多いと言うことが事実であり、語いの拡大にとっても比較的容易に用いられるものであるのだから、この指導には十分な時間をかけていねいな指導がなされるべきであると思われる。私自身が使用した教科書（日本語のきそI、海外技術者研修協会）では第6課で「体言+します」（勉強します。実習します）が出てくる。教師用指導書を見ると「勉強します」と「勉強をします」の違いについて、たまに質問がある。簡単に説明すること。」と書かれてあるだけだが、実際には学生からこの「体言+する」に関してかなり詳しい説明を要求された。おそらく、普段の会話の中ででくわすことが多かったであろう。残念なことに、教科書の中には特に語いの拡大のための配慮がなされていなかった。語いの選定の基準としてこの学習者の語いの拡大に関する点も見逃してはいけないのではないだろうか。そして、こういった事こそ、日本語教師自らが研究しその資料を評価し教授法や学習者に適した語いのリスト作成に役立てなければならないのである。

II. 「語感の広がり；連想的意味の調査結果から」

Leech(1984) は意味を以下の7つのタイプに分類し、2-6をまとめてAssociative Meaningという項目の下に置いている。彼の分類による1と7については外国語教育において指導の対象となりうるものであるが、2-6のAssociative Meaningの指導となると、手のつけにくい所である。

SEVEN TYPES OF MEANING

	1. CONCEPTUAL MEANING or Sense	Logical, cognitive or denotative content
ASSOCIATIVE MEANING	2. CONNOTATIVE MEANING	What is communicated by virtue of what language refers to.
	3. SOCIAL MEANING	What is communicated of the social circumstances of language use.
	4. AFFECTIVE MEANING	What is communicated of the feelings and attitudes of the speaker / writer.
	5. REFLECTED MEANING	What is communicated through association with another sense of the same expression.
	6. COLLOCATIVE MEANING	What is communicated through association with words which tend to occur in the environment of another word.
	7. THEMATIC MEANING	What is communicated by the way in which the message is organized in terms of order and emphasis.

しかしながら、外国語がだんだんと上達するに従ってこのAssociative Meaningの理解ができていない為に原文を読解することが不可能であったり、母国語話者とのすれちがいを経験することになるのである。別の言葉を使えば「語感」とよくいわれるところのもので、意味、音韻、文字などから連想されいろいろな反応となってあらわれうるものである。Wilikins(1973)は、複雑な意味の構造の理解の唯一の方法として多読を通してより多くの言語にふれることだと言っている。

So complex is the semantic structure of a language that it can be acquired only through wide exposure and this in turn can probably only be provided by extensive reading.

その通りかもしれない。しかし、何等かの形で学習者のこの語感の習得に少しでも役立つものが探せないだろうか。今回、実験的に100人の被験者にある語から連想される語を5つあげてもらいその結果の上位10語を調べてみた。また同様に50人にある類概念からその代表として3つの具体的な例をあげてもらいその結果の上位5語までを調査した。日本語を学習する者がある語から共通して連想する語を知ることができたら、又、多くの日本人が類概念から代表として考えるものを知ることができたら、それは少なくとも学習者にとってマイナスではないだろうと考えたからである。

<調査手順>

1. この調査の被験者は、本学の英語科1年の女子学生100人で、25語から連想される語をそれぞれ5つあげてもらった。以下がその25の語である。

1. 男 2. 女 3. 子 4. 夫 5. 妻 6. 母 7. 魚 8. 犬  
 9. 草 10. 木 11. 花 12. 鳥 13. 卵 14. 頭 15. 髪 16. 耳 17. 目  
 18. 鼻 19. 口 20. 舌 21. 足 22. 手 23. 腹 24. 首 25. 背中

<結果>

1. 答えられたもののうち上位10語をあげている。数字は答えた人の数を示している。

1. 男	強い	45	大きい	24	優しい	17	たくましい	14	高い	13
	仕事	13	女	12	黒い	11	筋肉	11	父	11
2. 女	優しい	24	可愛い	19	弱い	17	スカート	16	化粧	16
	母	14	きれい	12	おしゃべり	12	髪	9	男	9
3. 子	かわいい	62	小さい	40	うるさい	20	無邪気	10	我儘	9
	おもちゃ	9	弱い	7	素直	7	生意気	7	親	7
4. 夫	仕事	27	会社	22	優しい	21	強い	15	酒	11
	背広	9	妻	9	浮気	8	ネクタイ	8	給料	6
5. 妻	料理	17	優しい	17	家事	16	洗濯	14	エプロン	13
	子供	13	家庭	13	夫	10	掃除	10	買い物	9
6. 母	優しい	36	強い	21	子供	18	味噌汁	14	料理	12
	暖かい	11	父	9	エプロン	8	愛情	8	うるさい	7

7. さかな	海	59	泳ぐ	29	刺身	23	臭い	20	川	18
	釣り	16	おいしい	15	骨	15	猫	11	うろこ	11
8. 犬	可愛い	34	吠える	23	噛む	17	ワンワン	14	怖い	10
	白い	10	えさ	9	くさり	9	走る	9	ドッグフード	
9. 草	緑	66	野原	20	雑草	19	花	12	虫	12
	強い	10	自然	7	土	7	道端	7	露	6
10. 木	大きい	38	山脈	19	葉	17	高い	15	茶	13
	鳥	11	森	9	太い	8	木陰	8	桜	7
11. 花	きれい	47	赤い	16	バラ	15	花瓶	15	美しい	13
	可愛い	13	蜂	12	蝶ちょ	11	香り	10	枯れる	8
12. 鳥	飛ぶ	48	空	30	すずめ	16	羽	16	巣	12
	鳴く	12	小さい	10	卵	9	可愛い	9	えさ	9
13. 卵	鶏	48	目玉焼	34	黄色	31	白い	30	割れる	19
	ヒヨコ	19	玉子焼	16	丸い	11	黄身	8	ゆで卵	7
14. 頭	髪	30	脳	24	帽子	19	大きい	15	悪い	16
	ハゲ	13	考え	13	良い	10	硬い	10	頭痛	9
15. 髪	長い	56	黒い	47	シャンプー	24	パーマ	18	枝毛	16
	短い	16	きれい	11	リボン	9	さらさら	9	ハゲ	9
16. 耳	ピアス	46	聞く	34	イヤリング	16	耳かき	15	大きい	12
	小さい	10	耳たぶ	10	音	10	音楽	9	綿棒	6
17. 目	眼鏡	44	コンタクト	27	見る	24	大きい	24	黒い	20
	まつげ	16	涙	12	二重	10	きれい	8	小さい	6
18. 鼻	高い	36	低い	26	臭い	26	鼻水	12	大きい	11
	くさい	10	穴	10	小さい	10	風邪	8	丸い	7
19. 口	口べに	43	食べる	38	歯	28	大きい	21	話す	15
	小さい	14	赤	14	しゃべる	13	おしゃべり	12	息	8
20. 舌	味	28	赤い	26	長い	22	短い	12	なめる	10
	あっかんべー	8	ざらざら	8	やけど	7	味覚	7	動く	5
21. 足	走る	18	長い	15	くつ	14	歩く	12	太い	10
	細い	8	速い	8	靴下	7	足首	4	臭い	4
22. 手	指	26	つめ	24	大きい	15	手相	12	小さい	11
	書く	11	握手	10	手袋	10	握る	6	足	4

23. 腹	おへそ	20	痛い	16	でている	14	腹痛	11	腹巻	10
	中年	7	もう腸	7	妊娠	7	ウエスト	7	腹筋	6
24. 首	ネックレス	47	長い	25	細い	17	キリン	16	太い	15
	短い	15	白い	9	マフラー	7	うなじ	7	こる	4
25. 背中	広い	28	背骨	12	哀愁	8	男の人	8	大きい	7
	後ろ	7	おんぶ	6	日焼け	5	姿勢	4	丸い	4

2. 被験者は本学の英語科1年の女子学生50人で、22の類概念に関して代表的なものを3つあげてもらった。以下が、その22の語である。

1. 家具 2. 鳥類 3. 動物 4. 野菜 5. 果物 6. 魚 7. 乗り物 8. 楽器  
 9. 食器 10. ペット 11. 飲み物 12. 電化品 13. 調理具 14. 病気 15. 偉い人  
 16. スポーツ 17. 料理 18. 朝食 19. 漬物 20. 筆記道具 21. 履物 22. 衣服

## II. 類概念からその代表としてあげられたもの

類概念	代表としてあげられたものベスト5									
家具	タンス	26	机	19	イス	19	ベッド	16	テーブル	7
鳥類	スズメ	22	ハト	15	ニワトリ	12	カラス	11	インコ	10
動物	犬	28	猫	25	うさぎ	5	くま、ライオン			5
野菜	キャベツ	24	にんじん	18	レタス	15	きゅうり	14	トマト ピーマン	9
果物	りんご	29	みかん	16	ぶどう	13	バナナ、なし、いちご			11
魚	タイ	19	サンマ	12	マグロ	7	アジ、ブリ			6
乗り物	車	33	バイク	16	自転車	15	飛行機	9	電車	8
楽器	ピアノ	25	ギター	17	フルート	9	トランペット、ドラム			7
食器	皿	26	コップ	20	茶碗	13	グラス、スプーン、フォーク			7
ペット	犬	36	猫	35	(小)鳥	23	金魚、熱帯魚			3
飲みもの	ジュース	25	コーラ	18	お茶	13	コーヒー	11	牛乳、水	6
電化品	テレビ	16	ドライヤー	10	ビデオ	8	冷蔵庫、ステレオ			7
調理具	フライパン	21	なべ	19	包丁	14	まな板	10	オーブン	5
病気	風邪	27	ガン	19	腹痛	6	エイズ、頭痛			5
偉い人	父	10	母	9	天皇	8	自分、エジソン			4
スポーツ	テニス	20	バレー	20	野球	13	バスケット	12	サッカー	11
料理	カレー	10	ハンバーグ	6	玉子焼	5	シチュー、スパゲティ			3
朝食	パン	21	味噌汁	15	ごはん	15	コーヒー	7	ミルク、卵	5



漬物	たくわん 21	福神漬け 7	キムチ、シバ漬け、きゅうり	4
筆記道具	えんぴつ 26	けしゴム 19	ボールペン11 ペン 10 シャープペン 7	
履物	スリッパ 15	ゲタ 15	スニーカー14 くつ、パンプス	10
衣服	スカート 28	ズボン 14	シャツ 12 ブラウス 8 Tシャツ 6	

### <考察>

一つの語から広がる連想はかなり広範囲にまで及んでいることがこの調査から分かる。今回の調査の被験者が女子学生に限られたので一部かたよった結果が生じているが、少なくとも、日本人でなければ思いもつかないような語が連想されている場合があると言う事実だけは明確に示すことができたと思う。やはり日本人の文化と密接に結び付いているのである。中級のクラスの学生にNHKの「連想ゲーム」を見てもらったが、答えとしてあげられる語の意味が分かっているにもかかわらず、どうしてその答えができるのか殆どの場合分からないと言っていた。彼らには日本語の語感の広がりはまだ広がっていないと言えるだろう。語いの指導の難しさはこの辺にあると思われる。この語いの持つ **Associative Meaning** の指導に適した方法はないのであろうか。筆者はこの方法として語いの選択の配慮された教材を考える。本調査のような研究をもっと広く行ない、いろんな語から連想される語い、また類概念の代表として普通考えられる語いを広く調べ、それらの語いをまとめ会話文や物語を作成し、学習者に提示するのである。もちろん、この教材は文章として作られるだけでなく同時に視聴覚教材として作りだせばより効果があるはずだと思われる。文法中心で基本文型や文法事項の理解を目指したものは多くあるが、このように語いを中心に考慮した教科書は今までに作られていないのではないだろうか。多読の為の教材として初級段階から中級の初期段階にこのような教科書を作成し使用すれば、読解力の養成とともに、学習者の語感を広げる助けとなるであろう。

### <おわりに>

本調査で得られた結果から、「母」とその語から連想された語、またそれら連想された語いから連想される語あるいは類概念の代表として考えられる語いを使って試験的に教材を作ってみた。下線を引いてあるのが、それらの語い<sup>3</sup>である。

「啓志、早く起きなさい！幼稚園の先生においていかれますよ。」

「えー、もう朝なの。まだ眠いよ。」

「さー、朝御飯を食べて。バターにする、ジャムにする、どっち？」

「バター。ミルクあっためてよ。」

「はい、はい、、、お父さんは朝から御飯と味噌汁がないと怒るし、啓志はパンと目玉焼がないとだめだし。洗濯やお掃除、することはいっぱいあるのに、手間のかかる人たちなんだから。」

「おかーさん、今日お父さん会社から早く帰ってくるかな。」

「どうして」

「ううん、ちょっと。」

「またおもちゃのおねだりね。」

「だって、みんながもってるんだよ。」

「お給料が入ってからにきなさい。」

「いやだ、おかーさんはいつもけちなんだから。お父さんに買ってもらうからいいもーんだ。べーだ。」

「もー、最近生意気なんだから、この子は。早く歯を磨いて、幼稚園に行きなさい。」

<その日の夜>

「ただいま」

「お帰りなさい。遅かったのね。帰れんコールぐらいしてくればいいのに。お酒飲んでるの。」

「部長から誘われてね。時にはつきあってやらないと。部長も単身赴任だから寂しいんだよ。啓志は。」

「ちょっと前まで起きてあなたのこと待っていたんだけど。待ちきれなくて眠ってしまったわ。おもちゃ買って欲しいんですって。私はけちだから、お父さんに頼むんですって。寝ている時は、無邪気な顔してるけど、最近言うこときかなくて。」

「いつまでも思い通りにはいかないさ。男の子だし。そうだ、さっきビールこぼして、背広とネクタイにひっかけてしまったんだ。クリーニングにだしといてよ。何か食べるものあるかな。」

「夕食のカレーとハンバーグがあるけど。」

「カレーか、、、お茶漬けがいいや。漬けものあるだろう。この前、おまえの実家から送ってきた。」

「はい、はい、かしこまりました。」

## 語句の説明

手間 (名詞) 仕事をするのにかかる苦勞、または時間。

例 手間をはぶく。

おねだり (名詞) 無理を言って頼むこと。動詞の「ねだる」

例 おこづかいをおねだりする。

べー (擬態語) 相手に対しての嫌悪感を示す擬態語。普通、指で片方の目尻を下げながら言う。例 振り返って「べーっ」と言ってから彼女は帰った。

もん (終助詞) 理由や自分の行為への根拠を説明するのに用いられる。甘えた態度が表われ、不平や不満を表現をすることが多い。

例 だって先生がそう言ったんだもん。

生意気(な)(形容動詞、名詞) えらぶったり、知ったかぶりをしてにこらしい様子。

例 あいつは、昔から生意気だったよ。

帰らんコール(複合名詞) 夫が仕事などで帰りがいつもより遅れるとき家に電話をして知らせること。NTTがTVコマーシャルで使ったのが始まり。

例 うちの旦那は、絶対にかえれんコールなんかしない。

単身赴任(複合名詞) 転勤の為に家族と離れて一人だけ別の所で暮らすこと。

例 金森さん今度単身赴任で香港に行くそうよ。

無邪気(な)(形容動詞、名詞) あどけなく素直でかわいいこと。

例 あの人は、無邪気な性格です。

実家(名詞) 自分の生まれた家。

例 妻の実家のお母さんが、長崎に来るそうです。

## 問題

次の1-12までの各文の内容が本文の内容にあっていたら( )に「正」を、違っていたら「誤」をいれなさい。

- ( ) 1. 啓志は、朝食に御飯を食べた。
- ( ) 2. 啓志は、冷蔵庫にミルクがあったかどうかを聞いた。
- ( ) 3. お父さんは、朝食にパンを食べなさい。
- ( ) 4. お母さんは、啓志とお父さんとそれぞれに違った朝食を準備するのが好きである。
- ( ) 5. 啓志は、お父さんと遊びたかったのでお父さんが早く帰ってくるかどうかをお母さんに聞いた。
- ( ) 6. お父さんは、よく部長といっしょに飲みに行く。
- ( ) 7. お父さんが帰ってきたので啓志はおもちゃを買ってくれるように頼んだ。
- ( ) 8. 背広とネクタイが汚れたので、おかあさんは自分で洗濯をしてあげる。
- ( ) 9. お父さんは、お母さんにお茶をだしてくれるように頼んだ。
- ( ) 10. お父さんは、何も食べないで寝ることにした。
- ( ) 11. 漬けものは、お父さんの実家から送ってきた。
- ( ) 12. 啓志の晩御飯は、カレーとハンバーグだった。

## 注

1. 使用率は $\frac{\text{その動詞の使用度数} \times 1000}{\text{使用された動詞ののべ数}}$ で出し、パミールで示した。
2. 劉元孝は、「現代日語文」において、この「体言+する」を複合的さ変動詞として取扱っている。「する」がつけるものとして、名詞の他にも形容詞、形容動詞、副詞、漢字、漢語、外来語

をあげている。

3. 今回、「母」から連想された語とその連想された語から連想される、あるいは類概念の代表として考えられる語までを集めてみたが、この範囲をどこまで広げるかを実際に教材を作る場合には明確にしなければならない。

#### 参考文献

国立国語研究所「電子計算機による新聞の語彙調査（Ⅱ）」1971 秀英出版

林四郎 「基本語いはきめられるか」（新・日本語講座1「現代日本語の単語と文字」）1975  
汐文社

劉元孝 「現代日語文法」 台北：幼獅文化事業公司

Leech, Geoffrey, 1981 Semantics: A Study of Meaning. (2nd edn) Harmondsworth: Penguin

Twadell, W. Freeman (1973) "Vocabulary expansion in the TESOL Class room," TESOL Q, 7, 1, Mar., 61-78

Wilkins, David A. (1972) Linguistics in Language Teaching. London: Edward Arnold, Ltd.